

情報コーナー

◆特別ガイド『エコ×エネ お散歩ガイド』

八ヶ岳の森をお散歩しながら自然の営みの中にかれているエネルギーや生命のぐるぐるを学ぶガイドです。

いつもと、一味違った森あるきを楽しみながら地球と人とのより良い関係について考えます。

・日時／11月8日(土)・11月9日(日) それぞれ 10:00~11:00／13:00~14:00 全4回

・集合／山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(山梨県北杜市高根町清里 3545)

・定員／各回 20名 ●参加費無料

・主催／山梨県地球温暖化防止活動推進センター・公益財団法人キープ協会

・お申込み：八ヶ岳自然ふれあいセンター ガイドウォークページからお申込み

<https://fureai-c.info/guidewalk/>

◆清里ミーティング 2025 環境教育で未来をつくるためのボーダレスミーティング

<https://www.jeef.or.jp/activities/kiyosato/>

清里ミーティングは、さまざまな業種、世代の参加者が全国から集い、持続可能な社会づくりに貢献できる人材育成について学び合う 2 泊 3 日の対話型イベントです。自分と異なる視点に触れ、刺激し合うことで、各参加者の環境教育実践、そして環境教育全体の新たな可能性を広げていきます。

・テーマ：自然にふれるよろこびを、すべての人に。 ・定 員:150名

・日 程:2025年12月5日(金)～7日(日)<2泊3日>

・会 場:公益財団法人キープ協会 清泉寮(〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545)

・参加費:2 泊 3 日:JEEF 会員 40,000 円、一般 45,000 円、学生 35,000 円

・参加申込 <https://kiyosato-m2025.peatix.com/>

「全体会 1:インクルーシブな自然体験のあり方」「全体会 2:“ふしぎ”とともに生きる—センス・オブ・ワンダーで編む学びと暮らし」「ワークショップ」「ポスターセッション」「交流会」など

・主 催:公益社団法人日本環境教育フォーラム ・現地開催事務局:公益財団法人キープ協会

電話：03-5834-2897(平日 11:00～16:00) E-mail: kiyosato@jeef.or.jp 担当：垂水、東村、鴨川

◆『ゼロカーボンアクション30』新しい教材のご紹介

センターでは毎年、講習会やイベントなどで活用できる、温暖化防止の教材開発を行っています。

今年の教材は「ゼロカーボンアクション30カード」です。環境省が、脱炭素社会の実現のために呼びかけるライフスタイルの転換。その具体的な項目がカードになっています。

カードの表面には「行動」を、裏面にはそれにより脱炭素に貢献できる数値。

センターWEB の教材ページよりダウンロードできます。是非、皆様ご活用ください 例→

<https://www.keep.or.jp/yccca/material.html>

山梨県地球温暖化防止活動推進センター

〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545 やまねミュージアム内

TEL:0551-48-8011 FAX:0551-48-3577

<https://www.keep.or.jp/yccca/>

メール eco@keep.or.jp



つうしん 32号

●『脱炭素チャレンジカップ 2025』で北杜高等学校が、環境大臣賞を受賞しました！

去る2月20日、脱炭素チャレンジカップ表彰式が日本科学未来館で開催され、北杜高校の生物資源系列3年10名で構成する“チーム果樹”が学生部門で環境大臣賞を受賞。授賞式の後に、北杜高校のメンバーと先生がセンターまで、受賞の報告に来てくださいました。

この大会は、学校・団体・企業・自治体などの多様な主体が展開している脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について、書類審査、プレゼンテーション審査を行い、優れた取り組みを表彰している全国大会。チーム果樹は「果樹園で脱炭素！私たちの4パーセントイニシアチブ」というタイトルで、令和3年度から引き継がれてきた果樹の授業での脱炭素の取組を3分間のプレゼンテーションにまとめて発表しました。

★プレゼンテーションの動画

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/history/2025/finalist.php>

★QRコード →



受賞メンバーや先生に、今回の受賞に際しての、感想や学びはどんなものがあったかを伺いました。

「この活動は技術提供をしてくれた方、農産物を販売してくれた方、購入してくれた方、発信してくれた方、多くの方のお陰で成り立っており、とても感謝している。また、そういた多くの方を巻き込んでの活動ということを評価してもらつたと感じている」

「今回の発表は生徒が自主的にエントリーして放課後使って準備した。自ら行動することの大切さや発信することの楽しさ、人とのつながりなど、多くの学びがあった」

「農業で温暖化対策というのが机上の勉強ではピンとこなかったが、実際の作業経験を通して学ぶことができた」

「先輩方が、何年も続けてきた取り組みを発展させる形で今回の受賞につながった。受賞メンバーは卒業だが、これからも地域や世界の未来を創っていく人材として後輩たちが活躍してくれると嬉しい」

受賞後、センターへお礼の挨拶に来てくださいましたメンバーの誇らしげな表情をお見受けし、とても頼もしく感じました。大学生になっても、また新たなステージで活動してくれることを応援しています！おめでとうございました！

●大学生の生の声を お届けします！「みんな、気候変動、どう感じている？」

この夏、センターではインターン大学生の受入れをしました。その際、学生の「気候変動」に対する意見を聞きたいと考えアンケート調査をしました。その結果のダイジェストです



◆あなたは「気候変動の影響」を、生活のどんな場面で感じますか？

- ・冷房を付けないと家に居られないとき。暑くて来るまでの移動が増えているとき
- ・最高気温、更新のニュースを見たとき。水害のニュースを見たとき、ハザードマップを意識した
- ・生物について学んでいるので、分布が変わったと知ったとき
- ・世界のNGOが気候変動にアクションを起こしていると知ったとき
- ・食料品を購入しに行って、値段があがっているとき。コメの価格が高いとき
- ・作物の不作や、畜産動物の熱中症のニュースを見たとき。自分の畠で野菜が干からびたとき
- ・四季がなくなったと感じたとき。秋や春がない？！梅雨がないと思うくらい、雨が降らないとき
- ・近所の小学生の水泳の授業が暑すぎて中止と聞いたとき



◆あなたが気候変動に対して意識的に行っている対策はありますか？ 全員「ある」に○

- ・出来る限りエアコンを使わず、扇風機。公共施設で過ごし家庭エアコン利用を減らす
- ・近所の移動は徒歩で行く。公共交通機関を利用
- ・食べ物を残さない。フードロス削減のため買いだめをしない。
- ・ペットボトルを買わずに水筒利用。エコバック利用。ラップは使いまわす。
- ・近所からたくさんの野菜をもらって食べられない時はペットのエサにする
- ・自家栽培 地産地消。・節電、節水、節ガス ・川遊びに行って、エアコン部屋から飛び出す！
- ・気候変動に関する運動をしている団体に活動に行く ・親戚や周りの人にエコな取り組みを伝える



◆まわりの学生の気候変動への意識は高いと思いますか？

*高い／0% まあまあ高い／30% 少し低い／30% 低い 20%／ わからない 20%

◆どうしたらもっと、学生の意識を高められるでしょうか？具体案を教えてください

- ・アニメキャラとコラボした水筒を作つて販売する。・ポイ捨てを減らすためにゴミ箱を設置する
 - ・気候変動が知識で終わり行動する人が少ない。自分の地域を生かした暮らし方を実践的に学べたらいい。自分ひとりでやっても意味が無いと感じるので、地域の中で広がりを持ちながら具体的に行動している人と出会いたい。学生が関わることで地域の活動の高齢化を防ぐこともできるかもしれないし、光があたることになるのではないか
 - ・学生が好む有名人に、発信してもらうのは有効だと思う。専門家の意見はあまり興味がわからない
 - ・学校や家庭での自家栽培を推奨する。プランターで出来る簡単な物からはじめて、収穫の楽しさを知り、フードロス削減や食育を体験できる場を増やす
 - ・大学の近くのスーパーで、地元野菜を買うとポイントが多くたまる制度を導入し、地産地消を実践する
 - ・1人1本の植林体験。木がどれだけ脱炭素に効果があるか学べるし、机上の学びより実践をしたいから
 - ・環境配慮の企業でインターンしたらエコポイントがたまって、就活に有利になるとか、生活で使えると良い
 - ・気候変動を学べる教材を作り、近くの小学校で教える体験をする
 - ・商品にあるエコラベルの意味を学び、買い物の際に意識できるようにする
- 印象的なのは、学生が一人暮らしを始める中で、気候変動を強く感じ始めること。机上の空論ではなく、生活者として社会と関わり始める学生時代の経験は、人生にとって重要です。センターの今後のアプローチに生かしたいです

●根津記念館「子ども夏祭り」に出展しました

2025年8月10日、山梨市にある根津記念館の子ども夏祭りへ出展しました。「夏の涼しさ一工夫」をテーマに、センターの新教材「ゼロカーボンアクション30」カードの展開や、見た目が涼しい「雪の文様切り紙」、ひんやりヤマネを入り口に循環の概念を学ぶ「生きものぐるぐるスタンプ」などを体験してもらいました。センターの教材開発に力を貸して下さっている「ぐらいん屋:鈴律」さんの個展の最終日でもあり、定番の「エコカルタ塗り絵」も大人気でした。今夏は、スポーツ少年団の大会を夕方に変えるなど、気候変動への「適応」も進んでいます。脱炭素へ具体的な変化を加速させていくべき時代。体験する子どもたちの楽しそうな顔を見ながら、気象災害が少しでも減る未来を願い、今の世代の責任と行動の大しさをあらためて心に思う1日でした



●第12期 山梨県地球温暖化防止活動推進員 委嘱式＆研修会を開催しました

2025年9月2日、ピュア総合にて、第12期 山梨県地球温暖化防止活動推進員 委嘱式及び研修会を行いました。第12期は県内69名のメンバーで2年間の活動期間となります。山梨県ご担当者の、横森さんより活動説明がありました。センターも皆様の活動を支援していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願ひします。



●イオンモール甲府昭和「まなびのSDGs」に出展しました

2025年9月15日、イオンモール甲府昭和店で開催された「まなびのSDGs in 2050 Zero Carbon Cities」では、山梨県内の各自治体が取り組むSDGsやゼロカーボンの活動を紹介するパネル展示や、体験型のワークショップが開催されました。会場には一日を通して多くの買い物客が来場し、多彩なゼロカーボンの取り組みを楽しく学びながら知る機会となっていました。

●JQA 地球環境世界児童画コンテスト 優秀作品絵画展 を開催しました

2025年7月16日～8月26日の期間、八ヶ岳自然ふれあいセンターにて、地球環境世界児童画絵画展を開催しました。このコンテストは、地球環境を題材に絵を描くことを通して環境問題について考える場を提供し、次世代を担う子どもたちの環境意識の向上を願つて開催されています。今回は30か国、30作品の絵画を展示。観光地である清里にいらした親子が絵画を鑑賞しながら、「ウクライナにはヒマワリ畑があるんだね、守ってほしいね」「インドの田植えは民族衣装を着てやるんだね、かっこいいね」「日本のホタルの絵は心が和むね、いつまでも残ってほしいね」等と会話を交わしました。気候変動や私たちの暮らし方、民族としての誇りを守りながら、自然と共生する文化、絵画を入口として、デコ活アクション30の具体的な実践にも理解を深めてくださいました。

